

| | マニフェストの項目 | 達成率 | 実績 |
|---|-------------------------------|----------|-----------------------|
| 総務部長 | ホームページのアクセス数を1日1200件に | 105% | 1日平均1262件 |
| | 自主防災組織の組織率を60%に | 76% | 45.3% |
| | 健全財政を目指し実質公債費比率を16%に | 110% | 14.6% (平成24年度実績16.7%) |
| | 市税の口座振替の利用率を55%に | 98% | 53.9% |
| 小・中学生を対象とした租税教育を4校以上実施 | 100% | 4校 | |
| 市民環境部長 | 雑がみの回収量を100トンに | 93% | 93.2トン |
| | 一括交付金制度に伴う全小学校区の17組織での組織づくり | 47% | 8組織 |
| | 自然環境保全啓発イベントの参加者数230人以上 | 106% | 244人 |
| | 後期高齢者医療保険料の収納率98.3% | 99% | 98.1% |
| そうじゃ吉備路マラソンの参加者数2万人 | 95% | 1万8989人 | |
| 保健福祉部長 | 障がい者の就労者数750人 | 98% | 736人 |
| | 福祉から就労へ10世帯自立 | 120% | 12世帯 |
| | 各種健診の受診率向上の取り組み要請を10か所以上の企業へ | 110% | 11企業 |
| | 助成対象児の水痘・おたふくかぜの接種率をそれぞれ60% | 116・117% | 水痘69.3%・おたふくかぜ70.1% |
| 特定高齢者のうち、要介護などに至る割合を10%以内 | 108% | 9.3% | |
| 産業部長 | 地元農産物を利用した特産品開発2品目 | 100% | 2品目 |
| | 12月末までに農業基盤整備事業の工事発注率90%に | 93% | 83.7% |
| | 地元企業就職面接会の参加者数300人 | 108% | 324人 |
| | 観光ナビゲーターを25人育成 | 104% | 26人 |
| 企業誘致の推進のための企業訪問件数100社 | 105% | 105社 | |
| 建設部長 | 土木担当員の要望の執行(対応)率を50%に | 83% | 41.4% |
| | 職員による道路などの補修作業を500件実施 | 176% | 881件 |
| | 継続工事14路線中6路線の完成 | 83% | 5線路 |
| | 違法屋外広告物の除去を6回実施 | 67% | 4回除去 |
| 建築物の安全性確保のための現地指導10回 | 110% | 11回 | |
| 水道部長 | 耐震管への管種変更3500m | 149% | 5228.5m |
| | 有収率※90% | 98% | 87.9% |
| | 水洗化率を前年度比2.0%増 | 101% | 2.01%増 |
| | 汚水管整備2000m | 101% | 2015m |
| 水道料金・下水道使用量の口座振替率を前年度比2.0%増 | 77% | 1.54%増 | |
| ※水源から配水した水量のうち、漏水などで失われることなく、各家庭や事業所などに届いた水量の割合 | | | |
| 教育次長 | 「国語・数学の授業の内容がよくわかる」中学1年生75%以上 | 98・99% | 国語73.8%・数学74.7% |
| | 生活満足感調査5段階評価で3.85以上 | 102・90% | 小学校3.92%・中学校3.47% |
| | エアコンを中学校15教室に設置 | 127% | 19教室 |
| | 学校支援のための地域コーディネーター制度を全小学校で導入 | 100% | 15校(全小学校) |
| 市民会館利用件数を80件から90件へ増 | 80% | 88件 | |
| 消防長 | 消防団員の応急手当技術習得120人養成 | 88% | 105人 |
| | 救急安心カード普及のための出前講座を20団体実施 | 130% | 26団体 |
| | スポーツ団体を対象とした救命講習を20団体以上実施 | 140% | 28団体 |
| | 福祉施設の防火等相談会を8施設実施 | 113% | 9施設 |
| 幼少年婦人防火クラブを新規2クラブ結成 | 100% | 2クラブ | |

【総称】平成25年度「部長マニフェスト」の成果は、40項目あるマニフェストのうち、半分以上の23項目で設定した目標を達成。達成率では、職員による道路などの補修作業が最も高い。耐震管への管種変更やスポーツ団体を対象とした救命講習も目標の1.4倍以上の成果があった。

福岡敏雄
倉敷中央病院救命救急センター長
「ただ単にどこに運ぶのかではなく、どういうケア・キュアを求めているかを踏まえた連携こそ、意味のあるかたちになる」

宇野昌明
川崎医科大学付属病院脳神経外科部長
「救急患者数は増えており、マンパワーが必要。市民の要望を聞きながら、全体的に受け入れ体制を考えていきたい」

篠山英道
倉敷平成病院副院長
「介護、在宅ケアの充実を含め、退院後、どうやって生活していくのか、道すじをつけていく会議になることを期待する」



5月1日に市保健センターで開催された第1回総社市地域医療連携ネットワーク会議



寺島直之
吉備医師会代表理事

地域医療連携ネットワーク会議発足
病院の役割分担と連携方法を検討

市民の皆さんは「2025年問題」という言葉を聞いたことがありますか。これは、2025年までに団塊の世代が75歳以上になり、病気になったり、要介護になったりする人が激増する問題のことです。1950年代には自宅で亡くなる人が8割でしたが、現在では病院で亡くなる人が8割。このまま2025年を迎えると、「亡くなる人で病院がパンクしてしまう」、「治療が必要な人が病院に入れない」という事態も想定されます。今後は、急性期、慢性期、終末期といった体の状況に応じて、適切な医療や介護を提供するために、医療機関、介護機関などそれぞれの役割分担と密接な連携が重要となってきます。そうした状況のなか、先駆的な取り組みとして、総社市地域医療連携ネットワー

ク会議が発足。医療・看護・介護などの役割分担と連携のあり方について、倉敷中央病院をはじめ、市外の医療機関、市内の医療機関、介護機関、行政が意見交換を行う場となります。5月1日に第1回目の会議が、市保健センターで開催され、会議の趣旨説明や総社市の現状報告、関係機関からの情報提供が行われた後、活発に意見交換が行われました。吉備医師会の寺島代表理事は、「2025年問題に向け、市域を越えて地域医療、介護、福祉、行政が顔を合わせて抱える課題を話し合い、連携していく仕組みを示していきたい」と述べました。今後、医療や介護の需要と供給を踏まえたブランドデザインが描かれるよう、会議での意見交換に期待が寄せられています。

問い合わせ 健康づくり課健康増進係 (☎92-8259)

災害への備えを万全に
6月は土砂災害防止月間です



水防訓練
6月8日(日)
6:30~8:00
そうじゃ水辺の楽校
水害を未然に防ぐための水防工法や救助などの訓練

梅雨です
長雨・大雨に注意!

梅雨時期は、長雨や大雨などにより、全国各地で土砂災害が頻発し、時として尊い人命が奪われています。いつ、どこで起こるか分からない土砂災害から身を守る最も確実な方法は、「逃げる」ことです。「どこを逃げて、どこに避難するか」、「どのタイミングで避難するか」、「家族との連絡をどうやってとるか」などを、梅雨入りするこの時期に、家族や地域の皆さんとしっかりと確認し、土砂災害に備えましょう。

問い合わせ 総務課行政係 (☎8218)